

第2回 自動物流道路の実装に向けたコンソーシアム（3分科会合同会） 議事要旨

日時：令和8年3月16日（月）15：00～16：30

場所：中央合同庁舎3号館10階共用会議室

参加者：約240名

【議事】

1. 開会挨拶（佐々木国土交通副大臣）
2. Cargo Sous Terrain 社説明
3. 各分科会における検討状況について
4. 各分科会報告
5. 来年度の進め方について
6. 閉会

【代表幹事からの主なコメント】

■ビジネスモデル分科会 代表幹事

○今後のシミュレーションに向けて、自動物流道路の具体的な使い方・シナリオについて議論を深めていく必要がある。運営者の立場に立つなら何を重視するかも考えていく必要がある。使う側と使われる側の接点を見つけ出せるよう、議論していきたい。

■オペレーション分科会 代表幹事

○実験環境下での自動搬送はできたが、2027年度の新東名の実験、実環境で動かしていくことを念頭に技術開発を進めていくべき。荷役の実験結果からの試算については、搬送速度の技術開発よりも先行しているという印象を受けた。オペレーションの検討をする上でも、営業政策から求められる機器の仕様や収支計画の見通しが必要。

■インフラ分科会 代表幹事

○今回の試算は、前提条件が様々であり、数字の取扱いには留意が必要である。取り扱える荷物量は、拠点の能力がクリティカルになる可能性があり、自動物流道路のシステム全体で検討する必要がある。インフラ面の課題として、本線と拠点の接続方法や維持管理の効率化など、まだ論点がある。